

アイフル 株式会社

証券コード 8515

アイフル通信

第42期 中間報告

2018.4.1 ▶ 2018.9.30

Vol.45
December 2018





株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2019年3月期第2四半期の
決算業況についてご報告申し上げます。

2019年3月期第2四半期の業績について

消費者金融業界は、大手各社による積極的な広告展開などにより新規成約件数が引き続き安定して推移しており、これに伴い営業貸付金残高も緩やかに増加しております。一方、業界最大の事業リスクである利息返還請求については、ピーク時から大きく減少し、足元においては減少トレンドがより鮮明となったものの、未だ注視が必要な状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループにおいては、経営理念である「誠実な企業活動を通じて、社会より支持を得る」のもと、国内外で信頼され、必要とされるグローバル金融グループを目指しております。2019年3月期第2四半期においては、経営の重要課題である利息返還請求に引き続き対応しつつ、グループ全体で営業アセッ

トの拡大と金融事業の多角化に努め、「安全性」「収益性」「成長性」のバランスを重視した経営に取り組んでまいりました。

当第2四半期の収益面においては、営業収益は前年同期比71億円増の564億円(同14%増)となりました。主な要因としては、当社グループの主力事業であるローン事業において、ローン残高が前年同期比13%増の5,005億円となり、この結果、営業貸付金利息収入が321億円(同19%増)となったことによります。また、クレジットカード事業にかかる包括信用購入あっせん収益が78億円(同0%増)、信用保証事業にかかる信用保証収益が67億円(同5%増)となっております。このほか、償却債権取立益が31億円(同4%増)、買取債権回収高が9億円(同3%減)となっております。

営業費用については前年同期比45億円増の516億円(同9%増)となりました。増加の主な要因は、営業アセットの増加などにより貸倒関連費用が160億円(同22%増)となったことによります。このほか、金融費用が41億円(同4%増)、一般管理費が314億円(同4%増)となっております。

以上の結果、営業利益が47億円(同121%増)、経常利益が54億円(同126%増)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、非支配株主に帰属する純損失2億円を計上した結果、51億円(同52%増)となりました。



2019年3月期の計画について

消費者金融業界は貸付残高が順調に回復する一方、利息返還請求については、未だ注視が必要な状況が続いております。このような経営環境のもと、当社グループにおいては主力事業であるローン事業を中心に、国内外の各事業がいずれも順調に増加する見込みであります。

2019年3月期の連結業績予想については、当第2四半期の結果を踏まえ、営業収益が1,153億円(前期比0%減)となる一方、営業費用は998億円(同11%減)を見込んでおります。この結果、営業利益が155億円(同522%増)、経常利益が161億円(同470%増)、親会社株主に帰属する当期純利益が150億円(同279%増)を計画しております。

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、ローンやクレジットカードのリテール金融市場やASEANを中心とした海外市場が拡大局面にあり、当社グループが営むいずれの事業においても安定した成長が見込めます。今後も引き続き利息返還請求へ対応しつつ、金融事業の多角化や更なる営業アセットの増加に努めるとともに、資金調達が多様化による財務基盤の強化やグループ全体での事業効率の向上を目指してまいります。

今後もすべてのステークホルダーの皆様のご支援・ご期待にお応えできるよう、全力を尽くしてまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2018年12月

アイフル株式会社 代表取締役社長

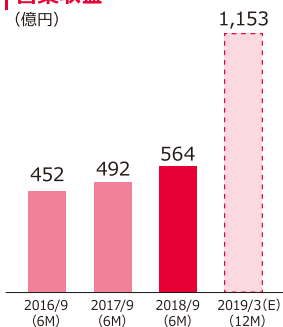
福田 名 彦



連結業績ハイライト

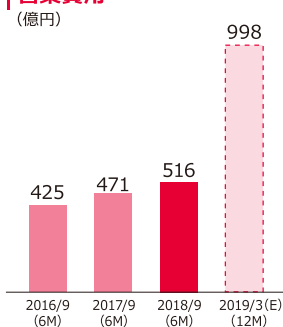
営業収益

(億円)



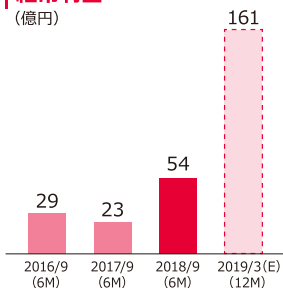
営業費用

(億円)



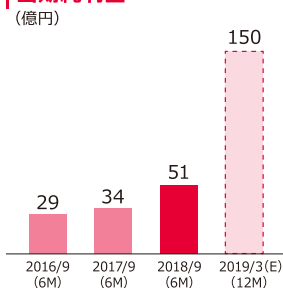
経常利益

(億円)



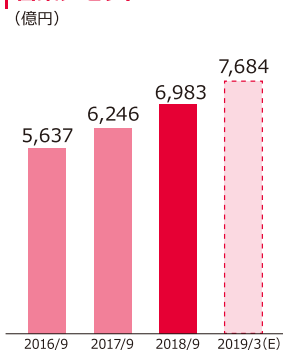
当期純利益

(億円)



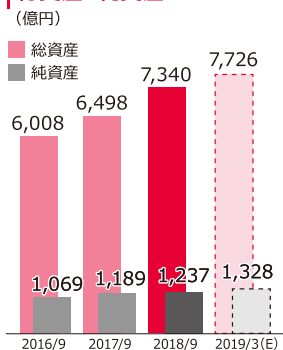
営業アセット

(億円)



総資産・純資産

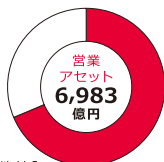
(億円)





ローン事業(国内)

4,795億円(比率69%)



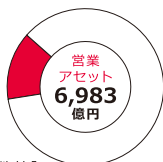
[主要数値]

無担保 ローン	4,075億円 (前年同期比+11%)
------------	------------------------

事業者 ローン	513億円 (前年同期比+17%)
------------	----------------------

クレジットカード事業

980億円(比率14%)



[主要数値]

買上実績	3,423億円 (前年同期比-1%)
------	-----------------------

割賦売掛金 残高	980億円 (前年同期比+3%)
-------------	---------------------

📍 ローン事業

国内でのローン事業は、無担保ローンの増加を主な要因として、当第2四半期末で4,795億円(前年同期比11%増)となり、このうち、無担保ローンの残高は4,075億円(同11%増)となりました。

また、アイフル単体におけるローン事業は、新シリーズのCMを開始するなど、テレビやWEBを中心とした効果的な広告展開を行うとともに、カードレス取引開始などによるお客様へのサービス向上に取り組み、新規成約件数や営業貸付金残高の増加に努めております。当第2四半期での新規申込件数は22万9千件(同8%増)、新規成約件数が10万5千件(同11%増)となりました。この結果、当第2四半期末のローン残高は3,800億円(同12%増)、このうち無担保ローンの残高は3,623億円(同13%増)となりました。

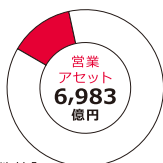
このほか、事業者ローンを取り扱うビジネスにおいて、事業者向けの与信ノウハウを活かし、引き続き個人事業主や中小企業のニーズに合わせた商品・サービスを提供しております。この結果、当第2四半期末でのビジネスのローン残高は536億円(同15%増)となりました。

📍 クレジットカード事業

ライフカードが行うクレジットカード事業では、独自のユニークな商品・サービスを提供しており、プロパーカードのほか、新たなタイアップカードや会計の待ち時間がゼロとなる病院との提携カードの発行などにより入会申込の拡大に努めるととも

信用保証事業

927億円(比率13%)

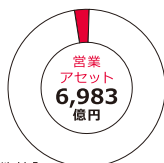


[主要数値]

個人向け保証残高	804億円 (前年同期比+13%)
事業者向け保証残高	122億円 (前年同期比+12%)

海外事業

209億円(比率3%)



[主要数値]

口座数	33万件 (前年同期比+72%)
貸付残高	209億円 (前年同期比+86%)

に、利用限度額の増額推進やポイント交換特典の追加など、カード会員の利便性向上に取り組んでおります。当第2四半期末の有効カード会員数は575万人(前年同期比1%減)、カード買上額は3,423億円(同1%減)となり、連結ベースの割賦売掛金残高は980億円(同3%増)となりました。

信用保証事業

信用保証事業においては、個人および事業者の与信ノウハウや独立系の強みを活かし、保証提携先拡大に向けた積極的な営業や新商品の提案・販売促進支援に取り組み、アイフル、ライフカードの双方で保証残高の拡大に努めております。この結果、当第2四半期末の信用保証残高は、927億円(前年同期比13%増)となり、このうち個人向け無担保ローン保証残高は804億円(同13%増)、事業者向け保証残高は122億円(同12%増)となりました。

海外事業

2015年9月よりタイ王国で消費者金融業を営むAIRA&AIFULは、タイの経済成長および消費拡大を背景とした旺盛な資金ニーズにより、当第2四半期末における口座数は33万件(前年同期比72%増)、当第2四半期末のローン残高は209億円(同86%増)と順調に成長しております。(A&Aは12月決算のため、口座数・貸付残高はともに2018年6月末時点での実績となります)



連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

	前期末 (2018年3月31日)	当第2四半期末 (2018年9月30日)
[資産の部]		
流動資産	648,053	700,499
現金及び預金	29,327	51,954
① 営業貸付金	412,706	437,117
割賦売掛金	97,252	94,732
営業投資有価証券	940	1,143
② 支払承諾見返	124,883	132,079
買取債権	2,874	2,551
その他	21,414	23,323
③ 貸倒引当金	△ 41,344	△ 42,402
固定資産	34,592	33,528
有形固定資産	18,133	17,440
無形固定資産	3,198	3,189
投資その他の資産	13,260	12,898
資産合計	682,645	734,028

(注)記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しています。

① 営業貸付金

無担保ローン残高の増加を主な要因として、会計ベースの営業貸付金残高は前期末比244億円増(同5%増)の4,371億円となりました。なお、流動化による調達のため、営業貸付金の一部をオフバランスとしております。

② 支払承諾見返

個人および事業者の与信ノウハウを活かし、各金融機関のニーズにあった与信提供や新商品の提案を積極的に行っており、保証残高の拡大に努めております。オフバランスとした営業貸付金(流動化債権)に対する保証を含めた会計ベースの支払承諾見返残高は前期末比71億円増(同5%増)の1,320億円となりました。

③ 貸倒引当金

当第2四半期において、貸倒損失の発生分145億円(うち、利息返還請求に係る債権放棄は8億円)を引当金から取り崩した一方、160億円の繰入を行った結果、貸倒引当金は前期末比10億円増(同2%増)の424億円となりました。なお、利息返還請求にかかる債権放棄の引当金は、前期末比8億円減(同36%減)の14億円となり、利息返還請求以外の貸倒引当金は、前期末比18億円増(同4%増)の409億円となりました。

(単位：百万円)

[負債の部]前期末
(2018年3月31日)当第2四半期末
(2018年9月30日)

	流動負債	307,340	339,107
	支払手形及び買掛金	16,196	17,660
	支払承諾	124,883	132,079
	短期借入金	83,325	85,474
	1年内償還予定の社債	1,300	1,470
	1年内返済予定の長期借入金	53,482	79,270
④	その他	28,152	23,152
	固定負債	255,898	271,153
	社債	7,200	27,530
	長期借入金	220,529	222,400
⑤	利息返還損失引当金	24,331	17,629
	その他	3,837	3,593
	負債合計	563,238	610,261
	[純資産の部]		
	株主資本	114,083	119,272
	資本金	143,454	143,454
	資本剰余金	13,948	13,948
	利益剰余金	△ 40,208	△ 35,020
	自己株式	△ 3,110	△ 3,110
	その他の包括利益累計額合計	130	△ 289
	新株予約権	234	233
	非支配株主持分	4,957	4,550
⑥	純資産合計	119,407	123,799
	負債純資産合計	682,645	734,028

④ 有利子負債

金融機関からの借入や私募債の発行など、資金調達が多様化を進めた結果、有利子負債は前期末比523億円増(同12%増)の4,878億円となりました。また、平均調達金利は前年同期比12bp減の1.74%となっております。

⑤ 利息返還損失引当金

当第2四半期において、利息返還金67億円(前年同期比45%減)を引当金から取り崩したため、利息返還損失引当金残高は前期末比67億円減(同27%減)の176億円となりました。なお、利息返還請求にかかる債権放棄の引当金14億円と合わせて、利息返還損失関連の引当金総額は前期末比75億円減(同28%減)の190億円となりました。

⑥ 純資産

純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益を計上したことを主な要因として前期末比43億円増(同3%増)の1,237億円となりました。



連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

	前第2四半期 累計期間 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)	当第2四半期 累計期間 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)
⑦ 営業収益	49,252	56,425
営業貸付金利息	26,958	32,154
包括信用購入あっせん収益	7,849	7,897
信用保証収益	6,431	6,768
その他の金融収益	4	8
その他の営業収益	8,007	9,596
⑧ 営業費用	47,103	51,669
金融費用	4,015	4,185
貸倒関連費用	13,057	16,023
利息返還関連費用	-	-
その他の営業費用	30,030	31,460
⑨ 営業利益	2,148	4,755
営業外収益	244	666
営業外費用	9	17
⑩ 経常利益	2,383	5,404
特別利益	701	-
特別損失	-	-
税金等調整前当期純利益	3,084	5,404
法人税、住民税及び事業税等	68	464
法人人税等調整	68	△ 6
当期純利益	2,947	4,945
非支配株主に帰属する当期純損失	△ 454	△ 242
⑪ 親会社株主に帰属する当期純利益	3,402	5,188

(注) 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しています。

⑦ 営業収益

営業収益は前年同期比71億円増(同14%増)の564億円となりました。営業貸付金利息収入においては、国内外での営業貸付金残高の増加に伴い、前年同期比51億円増(同19%増)の321億円となりました。このほか、クレジットカード事業においては包括信用購入あっせん収益が前年同期比0.4億円増(同0%増)の78億円、保証事業における信用保証収益が前年同期比3億円増(同5%増)の67億円となりました。

⑧ 営業費用

営業費用は前年同期比45億円増(同9%増)の516億円となりました。金融費用については、有利子負債は大きく増加したものの、調達金利が1.74%(同12bp減)まで低下したことにより、前年同期比1億円増(同4%増)の41億円となりました。このほか、貸倒関連費用については、国内外での営業アセットの増加に伴い前年同期比29億円増(同22%増)の160億円、その他の営業費用である一般管理費は前年同期比14億円増(同4%増)の314億円となりました。このうち、人件費は前年同期比5億円増(同7%増)の83億円、広告宣伝にかかる広告宣伝費および販売促進費の合計は前年同期比2億円減(同4%減)の55億円となりました。

⑨ 営業利益

以上の結果、営業利益は前年同期比26億円増(同121%増)の47億円となりました。

⑩ 経常利益

有価証券売却益4億円を計上したことなどにより、営業外収益6億円を計上しております。この結果、経常利益は前年同期比30億円増(同126%増)の54億円となりました。

⑪ 親会社株主に帰属する当期純利益

AIRA&AIFULの持ち分の範囲の影響として、非支配株主に帰属する当期純損失2億円を計上しております。この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前年同期比17億円増(同52%増)の51億円となりました。



連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

	前第2四半期 累計期間 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)	当第2四半期 累計期間 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)
⑫ 営業活動による キャッシュ・フロー	△ 33,954	△ 27,981
⑬ 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,170	2
⑭ 財務活動による キャッシュ・フロー	33,517	50,555
現金及び現金同等物に係る 換算差額	5	50
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△ 2,601	22,626
現金及び現金同等物の 期首残高	33,560	29,323
現金及び現金同等物の 期末残高	32,685	51,950

(注) 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しています。

⑫ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に営業貸付金などの営業アセットの増加による資金の減少などにより、279億円(前年同期比17%減)の資金を使用しております。

⑬ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却による収入などにより、2百万円(前年同期は2,170百万円の使用)の資金を得ております。

⑭ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済を資金調達による収入が上回ったことにより、505億円(前年同期比50%増)の資金を得ております。

経営理念

誠実な企業活動を通じて、社会より支持を得る

経営理念にはアイフルグループが恒久的に追い求めていく方向性が込められており、経営理念の実現に向け、お客様のニーズに合わせた商品・サービスの提供により個人・法人・事業者のお客様からいつまでも支持・信頼されるよう取り組んでおります。

会社概要

2018年9月30日現在

商号	アイフル株式会社(AIFUL CORPORATION)
本社所在地	京都市下京区烏丸通五条上る高砂町381-1
創業	1967年(昭和42年)4月
設立	1978年(昭和53年)2月
資本金	1,434億54百万円
代表者	代表取締役社長 福田 吉孝
社員数	2,339名(連結)
店舗数	890店(有人25・無人865)
ホームページ	http://aiful.co.jp

社名の由来

アイフル(AIFUL)の社名

『愛情「Affection」と

努力「Improvement」をもって

誠実「Faithfulness」に仕事に臨み、

結束「Unity」と

活気「Liveliness」に満ちた会社』を意味しています。



株式構成

(2018年9月30日現在)

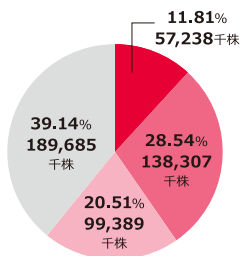
発行可能株式総数	1,136,280,000株
発行済株式総数	484,620,136株
(内、自己株式)	917,138株
株主数	29,640名

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社AMG (福田吉孝一族の資産管理会社)	94,814	19.56
福田 光秀	62,155	12.83
株式会社丸高 (福田吉孝一族の資産管理会社)	24,543	5.06
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	15,848	3.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	13,680	2.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	10,686	2.21
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/JANUS HENDERSON HORIZON FUND	9,266	1.91
MSIP CLIENT SECURITIES	7,107	1.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	6,155	1.27
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	5,459	1.13

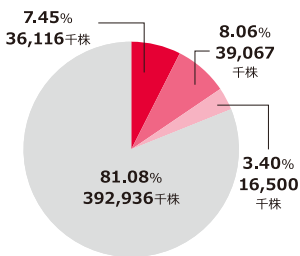
株式分布図

[所有者別]



- 金融機関等
- その他の法人
- 外国法人等
- 個人・その他

[所有株数別]



- 1万株未満
- 1万株以上 5万株未満
- 5万株以上 10万株未満
- 10万株以上



事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
その他必要があるときは、
あらかじめ公告して定めた日

**株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 ☎ 0120-782-031

インターネットホームページURL

<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

単元株式数 100株

公告方法 電子公告

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

銘柄コード 8515

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等の届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

アイフルグループのホームページでは、会社情報、サービス内容、IR情報など最新の情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



アイフルIRウェブサイト
<http://www.ir-aiful.com/>

アイフル株式会社
<http://www.aiful.co.jp/>

ライフカード株式会社

●クレジットカード・法人カード
<http://www.lifecard.co.jp/>

●プリペイドカード V-Preca
<http://vpc.lifecard.co.jp/>



アイフル